

保護林区分見直し等のスケジュール

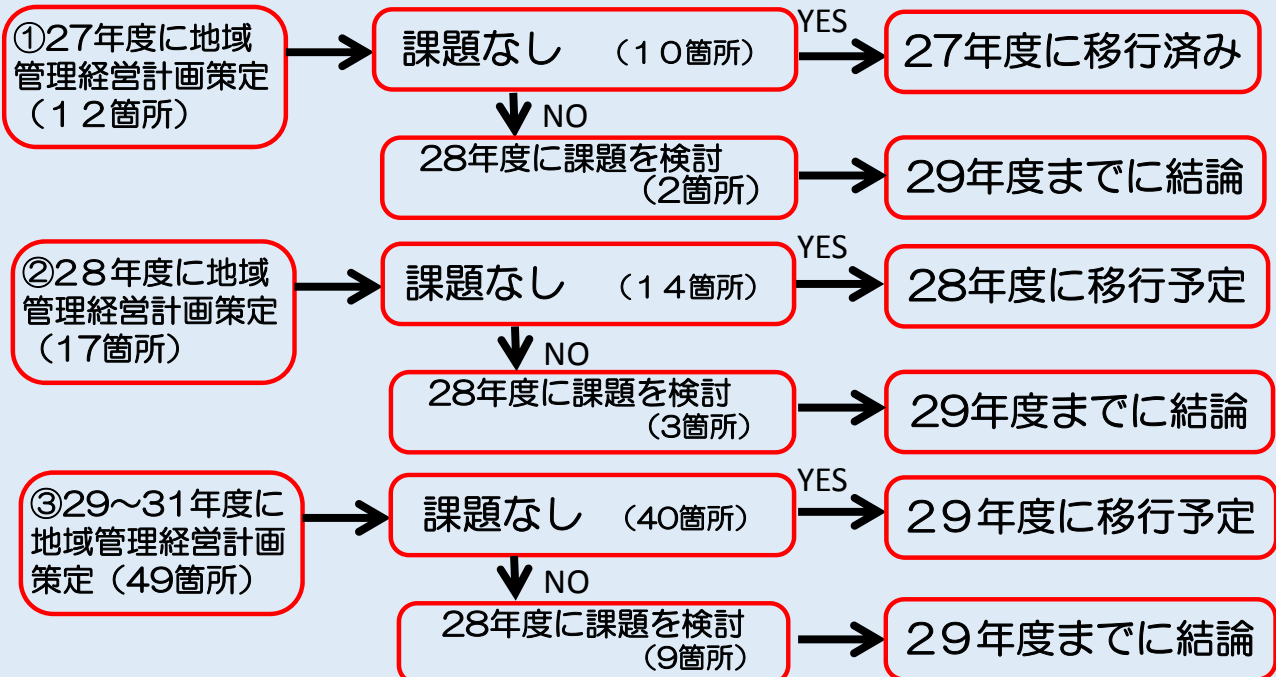
検討項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度以降
保護林の移行 (課題のないもの)	→ (移行済み)	→ 28年度策定計画区の検討	→ 29～31年度策定計画区の検討	
保護林の移行 (課題のあるもの)	→ 調査方法の検討	→ 調査	→ 調査 → 移行の検討	
既設保護林のモニタリング	→ 調査 → 評価	→ 調査 → 評価(2月)	→ 調査 → 評価	→ 調査 → 評価
生物群集保護林の 地帯区分			→ 調査方法の検討	→ 調査 → 地帯区分の検討
(関連事項) 地域管理経営計画 等への反映	→ 計画の策定	→ 計画の策定	→ 計画の策定・変更	→ 計画の策定・変更

注1: モニタリング実施期間の変更については、モニタリング調査の前年度に行う。

注2: 上記以外に検討が必要な項目として、モニタリング実施間隔の変更、国際基準への対応、野生生物保護管理手法の導入、復元の導入、民有林との連携については、28年度以降に具体的なスケジュールを含めて検討を行う。

保護林区分見直しの考え方

地域管理経営計画の策定に合わせて3タイプに分け移行する



注: 特定地理等保護林は原則廃止の方針が示されており、29年度までに対応を検討(岩見山特定地理等保護林)。

平成28年度 保護林制度の改正に伴う保護林区分の見直し（案）

	旧保護林区分	旧保護林名	面積 (ha)	新保護林区分	新保護林名（案）	保護対象樹種等	
1	森林生態系保護地域	白山森林生態系保護地域	7,049.24	森林生態系保護地域	白山森林生態系保護地域	優占種による植生帯 ブナ帯～ヒゲハリスゲ帯	
2	森林生物遺伝資源保存林	犀川源流森林生物遺伝資源保存林	1,793.53	生物群集保護林	犀川源流生物群集保護林	優占種による植生帯 シイ帯～オオシラビソ帯	
3	林木遺伝資源保存林	釈迦ヶ岳林木遺伝資源保存林	29.81	希少個体群保護林	釈迦ヶ岳ブナ・ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林	ブナ、ミズナラ	
4		由良林木遺伝資源保存林	46.21		由良ウバメガシ遺伝資源希少個体群保護林	ウバメガシ	
5		沖ノ山林木遺伝資源保存林	88.16		沖ノ山スギ・ブナ・トチノキ等遺伝資源希少個体群保護林	スギ、ブナ、トチノキ、ミズメ、ミズナラ	
6		山王谷林木遺伝資源保存林	114.72		山王谷スギ・ブナ・トチノキ等遺伝資源希少個体群保護林	ブナ、スギ、トチノキ、ミズメ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ	
7	植物群落保護林	嵐谷天然スギ植物群落保護林	10.58		嵐谷天然スギ希少個体群保護林	スギ	
8		青岳天然ヒノキ植物群落保護林	8.85		青岳天然ヒノキ希少個体群保護林	ヒノキ	
9		摩耶山天然スギ植物群落保護林	34.56		摩耶山天然スギ希少個体群保護林	スギ	
10		高野山コウヤマキ植物群落保護林	30.47		高野山コウヤマキ希少個体群保護林	コウヤマキ	
11		扇ノ山ブナ植物群落保護林	54.91		扇ノ山ブナ希少個体群保護林	ブナ	
12		野路山エドヒガン植物群落保護林	5.69		野路山ヨコグラノキ・コバノチョウセンエノキ希少個体群保護林	ヨコグラノキ、コバノチョウセンエノキ (エドヒガンは未確認)	
13		寂地山ブナ植物群落保護林	76.93		寂地山ブナ・スギ希少個体群保護林	ブナ、スギ	
14		右谷山ブナ植物群落保護林	118.24		右谷山ブナ希少個体群保護林	ブナ	
合計（14箇所）							